



JAPAN LEATHER AWARD 2013

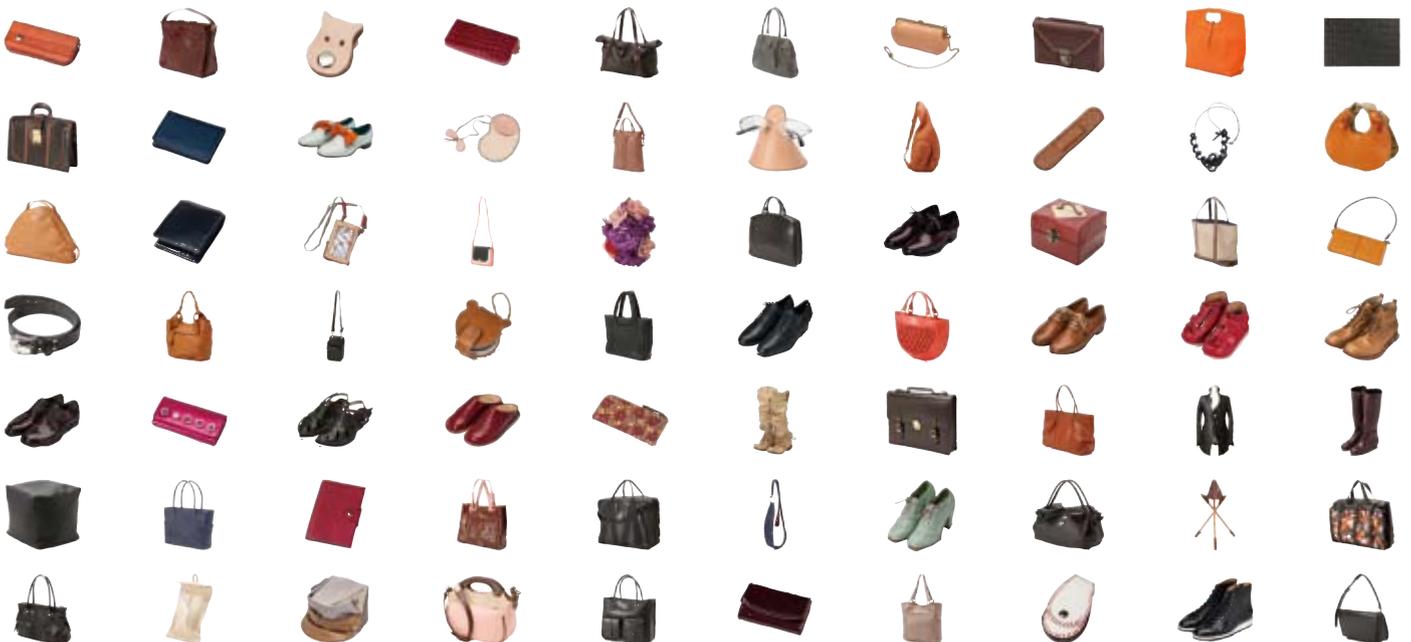
とびっきりのスタンダード

～愛着のわく肌ざわりと使いごち～

国内最大のレザーコンペティション、ジャパンレザーアワード。今年は皮革製品の新しいスタンダードを提案すべく、ものづくりの基本に立ち返ったテーマが掲げられた。数多くの作品の中から選ばれた“とびっきり”をご覧あれ。

文=町田佳子、吉田 勉、Discover Japan

写真=藤田晃史、中谷 丸、内田年泰、山本祐之、加藤史人、アラタジュン、落合明人





1) たつの市の真ん中に家族だけで開いた小さな靴工房は、車で10分も走ればタンナーのもとに行け、自分の想いを伝えることができる、理想的な環境。2) 靴の制作は足型を取る作業からはじまる。3) たつの市でつくられた革を使用し、着色から縫製まで、すべてひとりでオーダーメイドの靴をつくっている

PROFILE

靴工房MAMMA

菅野光広さん

SUGANO MITSUHIRO

住所：兵庫県たつの市揖保川町野田252

Tel：0791-72-4303

www13.plala.or.jp/kutu-mamma

2度の受賞に輝いた
皮革のまちの靴職人の矜持



「mitsuhiro sugano」

素材の良さだけでなく、安定感のある靴底に脱ぎ履きしやすいベルト、アーチをつけた中敷など細部にまでこだわりあり

ハリと柔らかさが両立し、端正かつ清楚な印象が全面に出るボックススクーフの魅力を、最大限に活かした一足だ。靴の構造はドイツで学んだ解剖学に基づいており、足を通じた瞬間、吸い付くようにフィットする。ハンドソーで縫い

合わされたインソールの革が、足型にしっかりとなじみ、疲れを感じさせない。「タンナーさんには、今も革のことを勉強させてもらっていますし、なによりも職人の、やる気を奮い立たせるような、いい革をつくってくれ

ます。このまちの優れた皮革技術をより多くの人に伝えたい。自分も生産性を上げて、地元の人とタンナーさんに安定した発注ができるようにしたい。たつこのという地に、職人とタンナー、互いを高め合うものづくりの矜持があった。



革の産地
たつの市を
盛り上げます

く入った現場では、大量生産の工程も経験した。現在の制作拠点である兵庫県たつの市は姫路と並んで全国屈指の革の生産量を誇る。「住んでいると意外と気づかないもので……。ぼくも外に出てはじめて、生まれ故郷が、

革の一大産地であることを知りました」。アトリエを構えて5年、今ではタンナーと密なコミュニケーションの革も制作してもらえようになった。「今回もいい革に仕上げてもらえました。ク

ロム靴の本場といわれるドイツの革にも負けない仕上がりたいと思います」。受賞に使われた革は色調にムラなく、地肌が見えるほど透明感がある。ソールもボックススクーフの耐久性に見合うものを選び、手縫いで丁寧に仕上げている。



紳士靴、婦人靴だけでなく登山靴などさまざまなニーズに答える菅野さん。すべてがひとり作業のため時間はかかるが、その価値は十二分にある

一昨年の紳士靴部門に続き、婦人靴部門でも栄冠を手にした菅野光広さん。今回のテーマである「とびつきのスタンダード」、自分の原点に立ち返り、ボックススクーフを素材として選んだ。「流行に左右されがちな婦人靴を、少しでも長く愛着をもって履いてもらうために必要な耐久性を考えた時、この革が最適だと思いました」。その中でも菅野さんが求める品質を実現してくれたのがクロム鞣し。「クロム鞣しの良さを一番伝えられるのが、ボックススクーフだと思えます。それが評価されてうれしいです」。

ボックススクーフといえばドイツ製品が思い浮かぶが、今回使われた革は国産、それもメイド・イン・たつこのだ。菅野さんの靴づくりを語る上で、ドイツとたつこの、このふたつのキーワードは切り離せない。まず靴づくりの基本はドイツで培われた。たつので生まれ、父も靴のデザイナーであった菅野さん、高校卒業後はドイツに渡り、靴職人の下で修業。解剖学や病理学を学び、足にトラブルがある人などが履くオーダーメイドの靴づくりに従事する。帰国後は工房やメーカーでさらに修行。デザインの幅を広げるべ

生活雑貨部門賞

靴職人の休日が
生んだアイテム

手製靴メーカーで制作に携わったのちにウィーンで靴づくりの腕を磨き、2011年6月に自身の工房をオープンした三澤さん。オーダーメイドの革靴づくりを主体に、靴以外の革製品を扱うサイドブランドも展開。「余暇にはじめた皮革工芸、かなり奥深い世界でした。この技術を生かしたアイテムをもっとつくってみたいですね。」



「CRISPIN」

上質な革に圧縮したオーガニックコットンを詰めたティディベア。アンティークの靴ボタンを用いたつばらな瞳がキュート

PROFILE

MISAWA & WORKSHOP

三澤則行さん

MISAWA NORIYUKI

住所：東京都荒川区荒川5-46-3-1F
Tel：03-6807-8839
www.theshoemakersholiday.com



身につけた皮革工芸の技術は、そのまま靴づくりへもフィードバックし、新作を制作

ファッション雑貨部門賞

履きやすさを
楽しさに

普段は整形靴をメインにフルオーダーの靴づくりをおこなっている濱野さん。「この作品をきっかけに整形靴のことをもっと知ってもらいたい」と話す。事故や病氣などで足にトラブルのある方が楽に歩ける靴が整形靴。その技術を応用すれば靴を履いて歩くことがより楽しいものになるという。履いて、見て、「楽」な靴づくりに注目したい。



「Leder Pantoffel」

室内履きでも「履いて楽」をコンセプトに整形靴の技術を生かしたインソールを採用。さらに見ためにも楽しいデザインに

PROFILE

ハマノ製靴所

濱野大輔さん

HAMANO DAISUKE

住所：香川県高松市丸亀町12-3
Tel：087-821-8239
www.shoemaker-hamano.com



長く使えて愛着のわくもの。そのために濱野さんにとって革は必須素材という

紳士靴部門賞

革の表情を引き出す
ものづくり

気に入ったデザインのシューズを何足も揃えるほど、靴に関心があった藪崎さん。東北芸術工科大学でプロダクトデザインを勉強後、憧れだった紳士靴のデザイン部門で働く。伝統を大切にしながらも、既成概念に縛られない自由な発想力で、靴に新たな表情をもたせる。そのために「革の特性や風合いをもっと勉強したいです」と語る。



「REGAL」

手もみ加工を施した柔らかい型押しコードパンのアップパーにクラフト感のあるノルウィージャン・ウエルト製法を組み合わせた

PROFILE

リーガルコーポレーション

藪崎大地さん

YABUZAKI DAICHI

住所：千葉県浦安市日の出2-1-8
Tel：047-304-7122
www.regal.co.jp



紙に書き出したスケッチ案の中から、選んだものを木型へ描き込む

エキゾチックレザー部門賞

エキゾチックを
より多くの人へ

家業が神戸で革靴の製造だったため、小さい頃から革が身近であった日根野さん。独立してからは、エキゾチックレザーに特化した製品の制作・販売を手掛けている。「小さい頃から革に携わり続けて、クロコダイルに行きつきました。見ただけでなく、使うことでわかるクロコ本来の魅力をより多くの人に知ってもらいたいです。」



「A.SAYAKA」

クロコの良さを知ってもらう入門編として制作。中身の取り出しやすさを考慮し、通常の長財布よりもサイズを大きめに調整

PROFILE

コムオンゴ

日根野吉浩さん

HINENO YOSHIHIRO

住所：東京都墨田区本所3-21-7
田中ビル1F
Tel：03-5619-1677



独特の斑(ふ)をどう表現するか、技術とセンスが問われるのがクロコの裁断だ

日本エコレザー部門賞

安心・安全な
エコレザー製品

革という素材に魅せられて、ベルトやバッグなどをメインに制作をする安達さん。「革製品の奥深い魅力を知ってもらえる商品をつくっていききたいです。その商品に触れて、より多くの人にもっと革に親しんでもらえるような」。そのために、子どもにも安心なエコレザーは最適な素材だという。安達さんの革への想いがここに結実した。



「翔」

ラム革のエコレザーを使用したティッシュケースカバー。フックがついており壁にかけられることできる

PROFILE

アトリエ・SHOU

安達翔平さん

ADACHI SHOUHEI

住所：埼玉県三郷市新和1-334-2
Tel：048-949-5047
www.atorie-shou.com



安達さんの多様性のある技術と工房には、チャンピオンベルトなどのオーダーも入る

メンズバッグ部門賞

姫路の革による
「地産地消」が目標

姫路の皮革縫製技術者の独立を支援する「革工房BIMO」出身の中野義夫さん。仲間とともに「姫路の革を使って、姫路でものづくりをする」と2011年に設立したのが「UNITE」だ。「革の産地だからこそ、タンナーとの連携から生まれる、革の風合いを活かしたアイテムを今後もつくり続けたいです。姫路発信のものづくり、期待大だ。



「UNITE」

革靴の重いイメージを一新。口元を巻きホックで開閉するつくりで、使うたび革のしなやかな肌触りが楽しめる

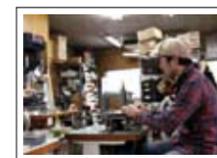
PROFILE

UNITE

中野義夫さん

NAKANO YOSHIO

住所：兵庫県姫路市四郷町上鈴231-2
www.facebook.com/Unite.co.jp



地元姫路にこだわる中野さん。もともと靴工場だった場所をアトリエにした

レディースバッグ部門賞

革がデザインの
幅を広げた

ものづくりが「楽しくてしょうがない」という佐藤さん。それまで帯地を素材に和洋折衷の世界観を生み出してきたが、革を取り入れたことでものづくりの楽しさはさらに増した。「これまで表現できなかったデザインが生まれました」。革の特長を生かしたのが今回の作品。今後、得意の帯地との掛け合わせによる展開も楽しみである。



「sa-to·chi」

ハンドバッグの肝は持ち手だと考える佐藤さん。革の質感を生かした柔らかいデザインを起こし、シルエットにも運動させた

PROFILE

sa-to·chi

佐藤智子さん

SATO TOMOKO

住所：千葉県野田市花井281-136
Tel：0471-22-5840



帯地、布、革それぞれの専用機器が並ぶ工房で試作を何度も繰り返し完成させていく

皮革製品の
新スタンダードを求めて
過去最多の応募作品が集まった。



審査会後の懇親会では多くの出品者が集まり、互いに作品を觀賞し合った

ジャパンレザーアワード作品に触れられる、
レザーイベントを開催します！

2013年12月11日～2014年3月9日

グランプリを含む受賞作品に加えて、受賞者のほかの作品にも出会えるイベントが、大阪を皮切りに4か所で開催。



東京・銀座

3月3日(月)～3月9日(日)

TIME & EFFORT

住所：東京都中央区銀座
8-5-4 銀座マジンビル
1・2階



東京・渋谷

2月16日(日)～27日(木)

渋谷ロフト

住所：東京都渋谷区宇田川町
21-1
開催場所：6階 特設会場



兵庫・西宮

1月22日(水)～28日(火)

西宮阪急

住所：兵庫県西宮市高松町
14-1
開催場所：4階 催場



大阪・梅田

12月11日(水)～17日(火)

阪急うめだ本店

住所：大阪府大阪市北区
角田町8-7
開催場所：10階 うめだスク
中央街区

ジャパンレザーアワードを主催する
日本皮革産業連合会(JLIA)の主な活動

日本の皮革業界が横断的に参加する組織、日本皮革産業連合会(JLIA)は、皮革業界の活性化のため、技術開発や各種施策の調整を行うことで、より品質の高い皮革製品づく

りのサポートを行っている。さらには、消費者である私たちにとっても有益な活動を行っているので、Webなどからその活動をぜひチェックしてみてください。



日本エコレザーの認定

製造・販売・輸送・再利用などの厳しい基準をクリアした皮革にたいして「日本エコレザー」の認定を行う。



kids' leather programs
革を学ぼう! 革で遊ぼう!

革を身近に感じてもらうイベントや教育プログラムを展開。素材としての皮革の啓蒙と次世代の人材育成につなげる。



銀座 革のショールーム
「TIME & EFFORT」

銀座に革に特化したショールームを展開。メイド・イン・ニッポンの皮革の良さ、ニッポンのものづくりの良さを発信。

審査員特別賞

PROFILE

ナオトサトウ

佐藤直人さん

SATOH NAOTO

住所：埼玉県さいたま市大宮区上小町1032
Tel：090-1761-9867
www.naotosatoh.jp



「NAOTOSATOH」

「ここ数年使い続けているネオブレンレザーと、特殊な縫製で柔らかさと軽量化にこだわりました。このバッグを主体としたファッションのトータルコーディネート提案ができるようになっていきたいです」

PROFILE

大塚製靴

猪山純史さん

IYAMA JUNJI

住所：東京都港区六本木7-15-14
Tel：03-5413-0770 (代表)
www.otsuka-shoe.com



「OTSUKA M-5」

「コードバンを贅沢に使用しました。独特の光沢を十分に味わえるようプレーントーンにし、明治時代から伝わる技術を使いクラシカルに仕上げながらも、ソールを生地色にすることでカジュアルさもプラスしています」

PROFILE

猪瀬

猪瀬新吾さん

INOSE SHINGO

住所：東京都葛飾区堀切7-24-5
Tel：03-3601-0738
www.fiathority.com



「Fiathority」

「遊び心のある高級感を意識し、シンプルかつ機能性にこだわりました。素材感をいかすため芯材は一切使わず、シュリンクの入ったソフトレザーで艶色に高級感を演出。デザインとコバ色でポップな印象も取り入れています」

PROFILE

真心工房 革ノ花宗

ますだ じゃりさん

MASUDA JARI

住所：福岡県久留米市津福本町2128-1
R-BOX tsubuku1-2
Tel：0942-55-9363 http://hanamune.net



「革ノ花宗」

「様々な機器のコードを可愛くくわえて束ねてくれるコード式。ホック式で誰でも簡単にコードを束ねられます。強めのホックを使用しているので最適な革のハリ感や厚みは試行錯誤の上、専用の革を仕入れてつくっています」

アマチュア部門賞

メンズ部門、レディース部門のダブル受賞

「偶然書店で見つけた『日本の革』という本で、さまざまな表情をもつ革の魅力を知りました。今はまだ趣味の範囲の制作ですが、革だからそのアイデアが次々に生まれています。これからもチャレンジしていきたいです」



メンズ部門

「ダレスポストンバッグ」

「“スタンダード”な形のダレスを“とびっきり”に仕上げるために、見た目の美しさと使い心地の良さを重視し細部まで丁寧に仕上げました」

レディース部門

「山葡萄みたいなかごバッグ」

「伝統的な山葡萄かごは使い込むほどに艶が出て美しく育っていくもの。その性質が革とよく似ていると思い、同じ製法で制作してみました」



PROFILE

森谷敦子さん

MORIYA ATSUKO

革漉き機なども揃ってきた。今回の受賞を機に森谷さんの制作活動はより広がります。

Web投票特別賞

PROFILE

Bobby Art Leather

照下 稔さん

TERUSHITA BOBBY MINORU

住所：大阪府大阪市東淀川区下新庄
5-6-16 メロディーハイム北大阪609
(完全アポイント制)
Tel：080-6153-4072
www.hey-bobby.com



「Bobby Art Leather」

「エコリサイクルをこれからのスタンダードとして捉え、ハグレとなった日本の上質なレザーを、ミシンなどの機械を使わず革ヒモを用いたハンドステッチだけで、タイトで洗練されたシルエットに仕上げました」

